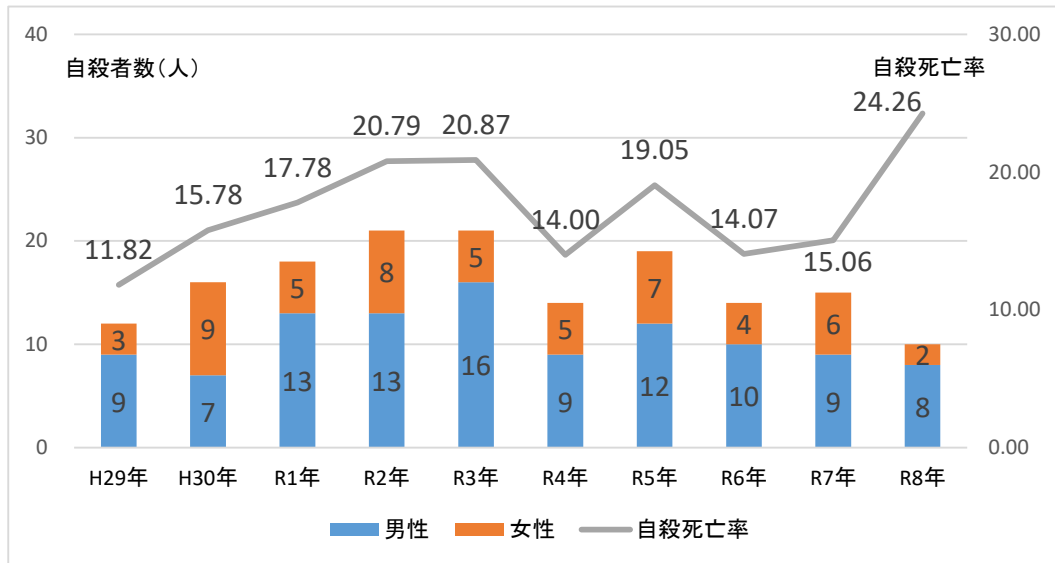


坂戸市の自殺者数等の状況

【資料1】

【図1】坂戸市における自殺者数の推移

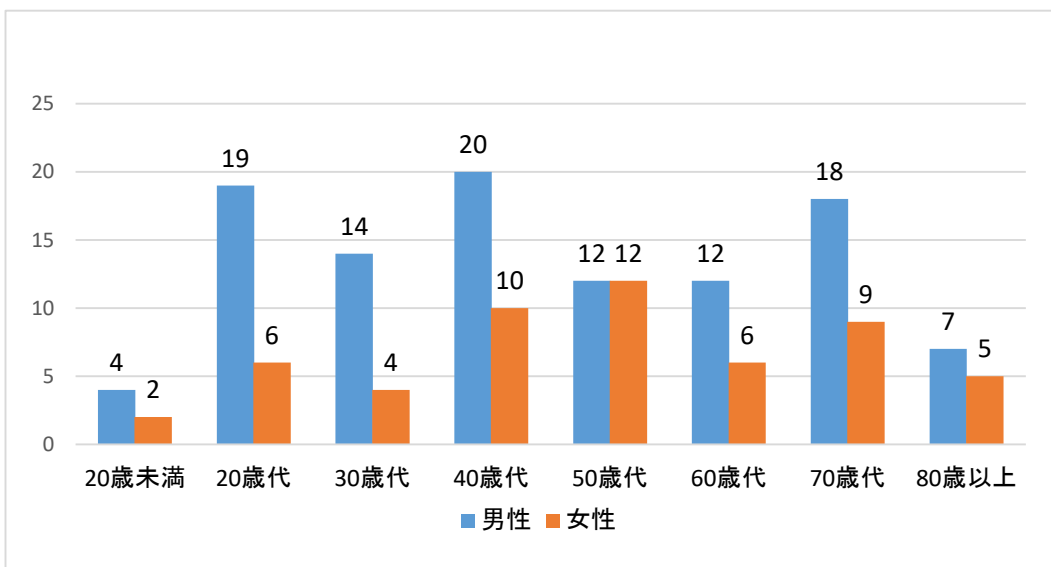


資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

平成29年から令和8年の本市における自殺者数の推移である。
令和7年の自殺死亡率は15.06%となっており、令和6年から0.99ポイント増加している。性別では平成30年を除き、男性の自殺者が女性より多い傾向にある。

※令和8年の自殺死亡率は、5月までの実数に基づく年間推計値

【図2】坂戸市における性別・年代別自殺者数(H29-R8)



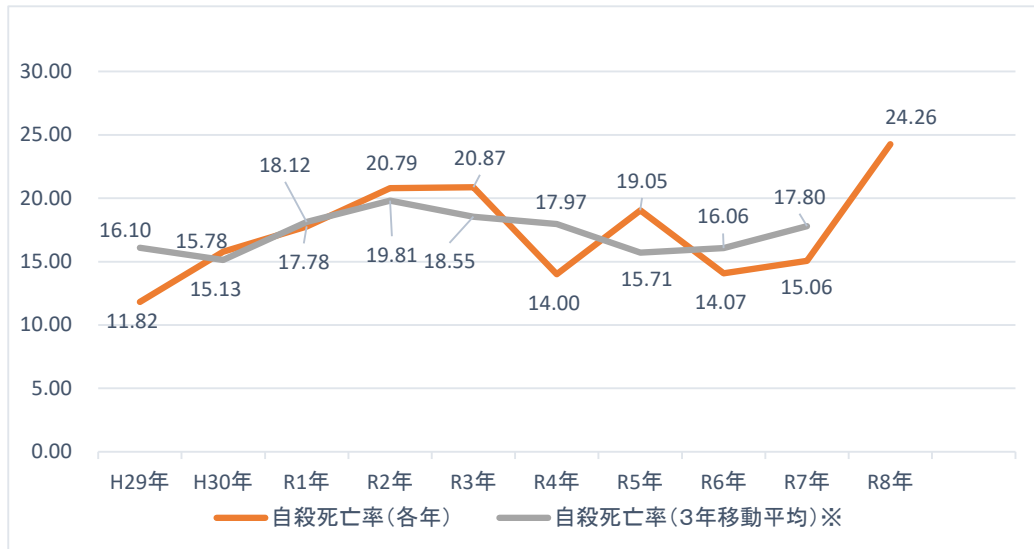
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

平成29年から令和8年の本市における性別・年齢別の自殺者数である。
男性の年齢別自殺者は、40歳代が最も多く、次いで20歳代、70歳代の順に多い。
女性の年齢別自殺者は、50歳代が最も多く、次いで40歳代、70歳代の順に多い。

坂戸市の自殺者数等の状況

【資料1】

【図3】坂戸市における各年の自殺死亡率と3年移動平均の自殺死亡率の比較



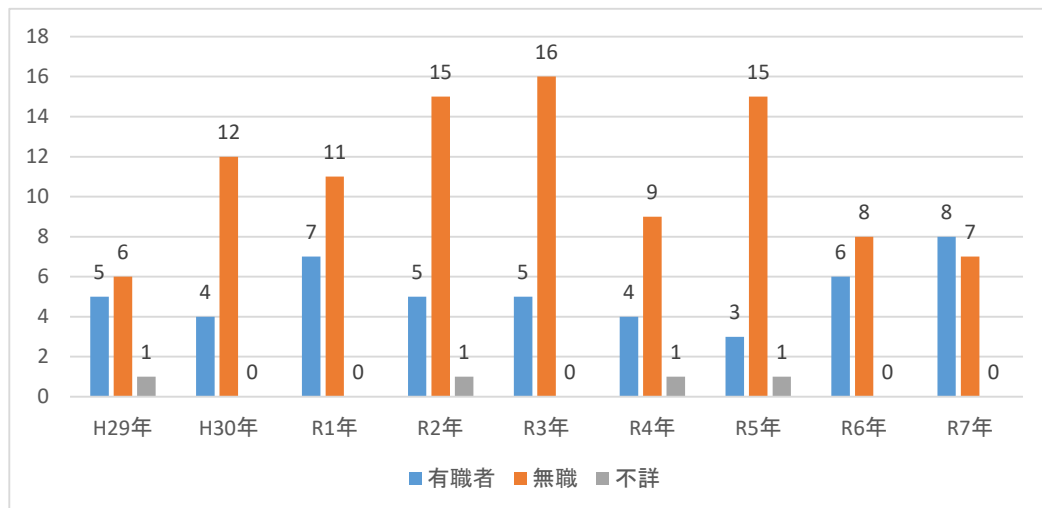
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

平成29年から令和8年の自殺死亡率がオレンジ色の折れ線グラフであり、令和4年と比べ、令和6年は0.07ポイント増加、令和7年は1.06ポイント増加している。またグレーの折れ線が3年移動平均の自殺死亡率であり、令和7年の3年移動平均の自殺死亡率は、令和6年から1.74ポイント増加している。

※X年の自殺死亡率の移動平均値は、X-1年、X年、X+1年の自殺死亡率の平均値

※令和8年の自殺死亡率は、5月までの年間推計値

【図4】坂戸市における職業別自殺者数の推移



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

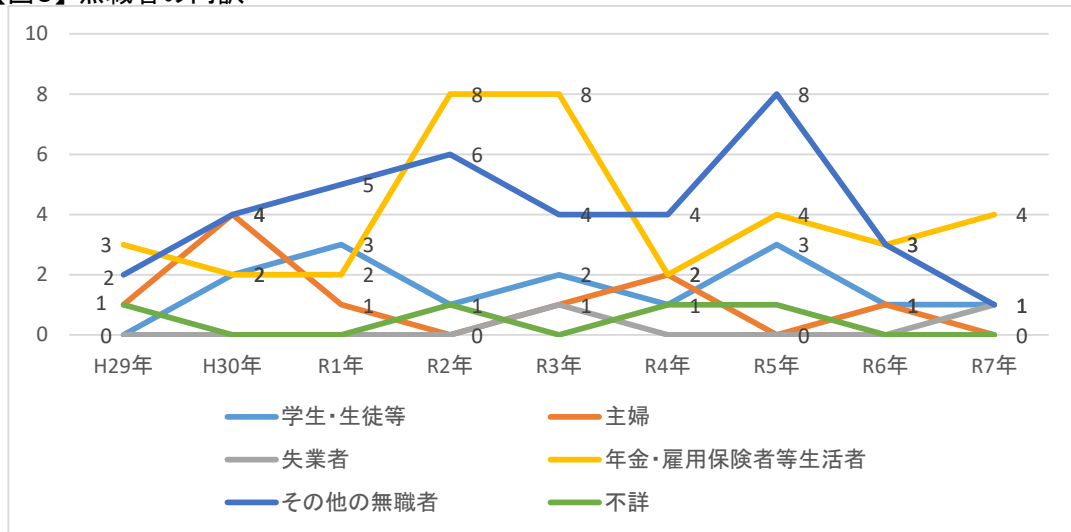
平成29年から令和7年までの職業別自殺者数の推移である。

令和7年を除き、無職の自殺者数が多い。

坂戸市の自殺者数等の状況

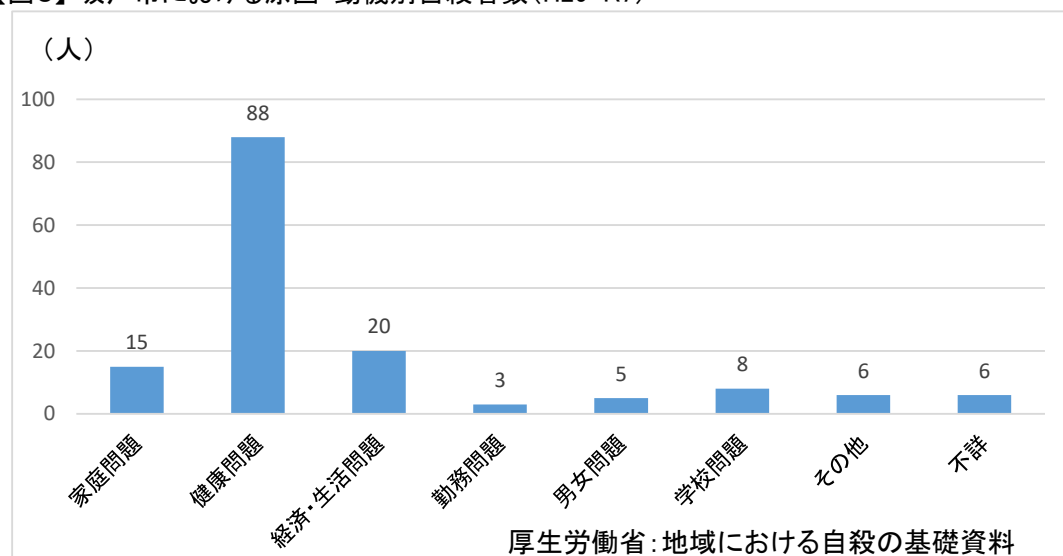
【資料1】

【図5】無職者の内訳



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

【図6】坂戸市における原因・動機別自殺者数(H29-R7)



厚生労働省：地域における自殺の基礎資料

平成29年から令和7年の原因・動機別自殺者数としては健康問題が最も多く、次いで経済・生活問題、家庭問題となっている。

坂戸市の自殺者数等の状況

【資料1】

【表1】地域の主な自殺の特徴（特別集計（自殺日・住居地、2020年～2024年合計）

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率* (人口10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:男性60歳以上無職同居	13	14.60%	32.1	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ） +身体疾患→自殺
2位:女性40～59歳無職同居	9	10.10%	29.4	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺
3位:女性60歳以上無職同居	7	7.90%	11.4	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位:男性60歳以上無職独居	6	6.70%	69.2	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来 生活への悲観→自殺
5位:男性20～39歳無職同居	6	6.70%	67.7	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の 不和→孤立→自殺／②【20代学生】就職失敗 →将来悲観→うつ状態→自殺

典:いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」(2025)